

「助け合うということ」

校長 安藤 徹



10月を迎え、校長室の9月のカレンダーをめくり、あらためて今年も残りのカレンダーがあと3枚、つまり3カ月になってしまったことを実感しています。

ところで、9月16日の文化祭には多くの方々に来校いただき感謝申し上げます。当日は生徒たちの日ごろの学習や様々な準備の成果をじっくりとご覧いただけたでしょうか。

これまでの3年間は入場者数や入場できる時間帯などを分散してきましたが、今年度は何の入場制限も設けず、生徒一人ひとりが様々な場面で来校していただいた方々とのふれあいを楽しんでいる様子がとても印象的でした。



さて、話は変わりますが、10月15日は「助け合いの日」だということをご存じでしたか？これは日常生活でのちょっとした助け合いや地域社会のボランティア活動への参加を呼びかけるために全国社会福祉協議会という団体が1965年に制定したものだそうです。

ということで今回はこの「助け合い」について考えてみたいと思うのですが、今年4月から校名が「岩戸支援学校」に変更となった際にも、生徒の皆さんには「支援というのはみんなで支え合い、助け合うこと。岩戸支援学校を今まで以上に支え合い、**助け合える**学校にしていきたいと思います」と伝えました。

私はこの「助け合い」が当たり前の社会にしていくためには次にあげる3つの気持ちを持つことが大切ではないかと考えています。

一つ目はまずは『**感謝の気持ち**』です。何かをしてもらい助けてもらっても、その人がそれを当たり前のことと思ってしまうと感謝の気持ちを持つことが難しくなり、人から人への感謝の気持ちがつながらず、結果として助け合いの連鎖が途切れてしまいます。どんなに些細なことでも、また毎日同じように繰り返されることでも自分のためにしてくれることには「ありがとう」という感謝の気持ちを持つことが何よりも大切です。

二つ目は『**謙虚な気持ち**』です。言い換えれば「素直な気持ち」ともいえるかもしれません。それは「助けてあげている」という上から目線的な気持ちではなく、ごく自然な気持ちから何かをしたいとか助けたいという気持ちを持てるようになることが大切だと思うのです。見かけだけの一方通行の助け合いはきっと連鎖や輪にならず、その場限りのものに終わってしまうのではないかと思います。

また助けられる側にも誰かに何かしてもらうことを素直に受け入れることも大切です。

最後にもう一つ大切なのは、困ったときや苦しいときに『**「助けて」といえる勇気(気持ち)**』だと思います。「困ったときにはお互い様」という言葉はよく耳にしますが、いざ自分が困ったときに「助けてほしい」という気持ちを伝える相手がいるかどうか、その人たちに勇気をもって助けてほしいことを依頼したり訴えたりすることができるか、それが大きなポイントになるのではないかと考えています。

「助け合い、支え合える学校」は私が校長として目指している岩戸支援学校の理想の姿です。生徒・教員との助け合い・支え合いはもちろんですが、保護者の方々、地域の方々との支え合い、助け合いも大切に今後も社会・地域に開かれた学校を目指していきたいと考えています。

令和5年10月1日

